

2 痴呆の状況

利用者と未利用者の痴呆の状況はつきのとおりである。

<まとめ>

痴呆の症状が「ひんぱんにある」割合は、未利用者より利用者の方が高い。
 利用者では、要介護3以上で「ひんぱんにある」割合が高くなる。
 未利用者では、要介護4以上で無回答の割合が5割前後を占める。

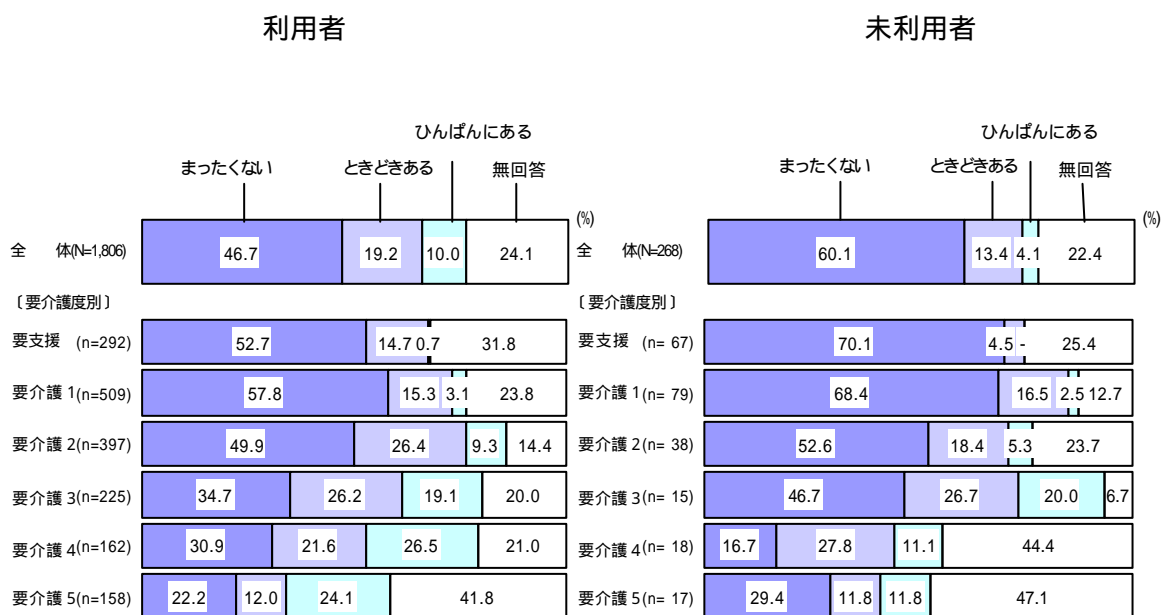
(1) 利用者・未利用者の痴呆の状況

～ の項目で、利用者は、「まったくない」が38～47%、「ときどきある」が16～24%、「ひんぱんにある」が10～13%となっている。一方、未利用者は、「まったくない」が50～60%、「ときどきある」が13～21%、「ひんぱんにある」は1割に満たず4～7%となっている。

要介護度別に見ると、利用者では要介護3以上になると「ひんぱんにある」が19～28%と高くなる。未利用者では回答数が少なく、要介護4以上になると無回答が半数前後を占めている(図表 - 2 - 1)。

図表 - 2 - 1 利用者・未利用者の痴呆の状況
 (利用者調査、未利用者調査/全体、要介護度別)

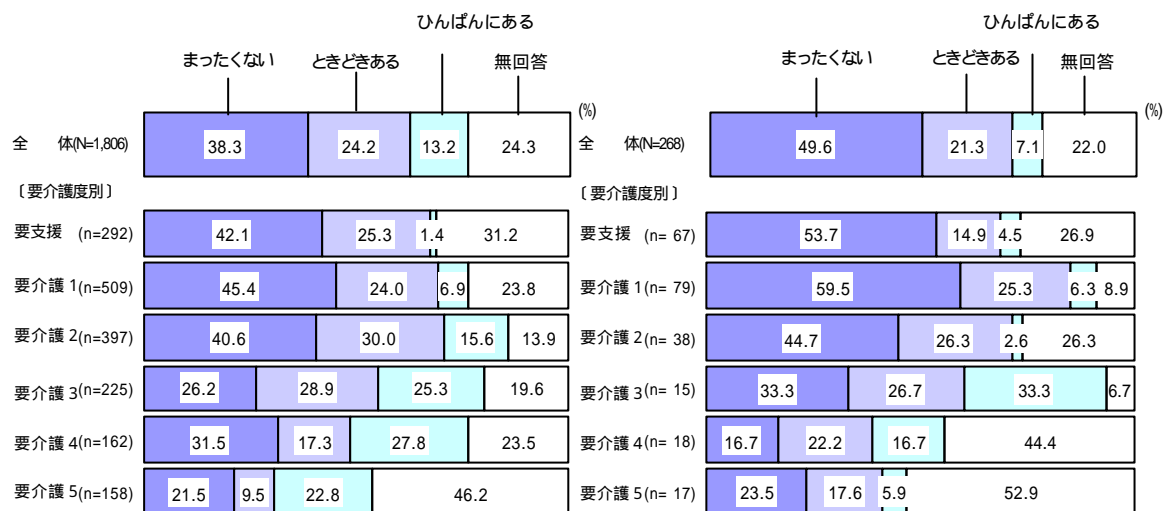
慣れた道や場所がわからなくなること



薬を飲む時間や飲む量を間違えること

利用者

未利用者



火の始末や火元の管理ができなくなること

利用者

未利用者

